

科目名	情報科学		学年	3年9期生	
担当者			期別	後期	
単位数	2単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	兼任	
実務経験	久留米大学医学部の情報リテラシー教育教員				
一般目標(GIO)					
正しい情報の取り扱いと発信の方法、情報処理に必要な統計手法を学び、情報を正しく取り扱うための情報倫理を身に着ける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	4	1	情報リテラシー	情報とは何かを説明できる。
2		11	1	情報管理	情報(特に秘匿性のある)の管理方法を説明できる。
3		18	1	情報倫理	個人情報の取り扱い、守秘義務について説明できる。
4		25	1	情報検索	情報の検索手法を説明できる。
5	11	1	1	情報検索(演習)	情報の検索手法を選択し、正しい情報検索手法を説明できる。
6		8	1	電子文章の作成(基本)	基本的な電子文章の作成方法を説明できる。
7		15	1	電子文章の作成(応用)	MS Wordを活用して、効果的な文章が作成方法を説明できる。
8		29	1	電子資料の作成(基本)	基本的な電子資料の作成方法を説明できる。
9	12	6	1	電子資料の作成(応用)	MS Powerpointを活用して、効果的なプレゼン用資料を作成方法を説明できる。
10		13	1	プレゼンテーション	MS Powerpointを活用して、効果的なプレゼンテーション作成方法を説明できる。
11		20	1	表計算(基本)	基本的な表計算(数学的演算)手法を説明できる。
12		27	1	表計算(応用)	MS Excelの関数を利用して、情報の集計と統計処理方法を説明できる。
13	1	10	1	統計処理(基本)	統計手法の概要を説明し、統計手法の選択手法を説明できる。
14		17	1	統計処理(応用)	R言語(Easy R)を使用した統計処理手法を説明できる。
15		31	1	統計処理(課題)	様々な課題に対する正しい統計手法を選択し、統計結果に対する適切な解釈を導くことを説明する。
評価基準			教科書		参考書
電子文章の演習と課題	25%	適時、資料と課題を提示する。		学生のための情報リテラシー(東京電機大学) 若山芳三郎著 生命科学・医療系のための情報リテラシー(丸善) 飯島史郎著	
電子資料の演習と課題	25%	インターネットの検索システムを用いる。			
表計算の演習と課題	25%				
統計処理の演習と課題	25%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:35~11:20)

3限目(11:25~12:55)

科目名	関係法規2			学年	3年9期生
担当者				期別	前期
単位数	2 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間 15回			専任・兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員所有 接骨院開業				
一般目標(GIO)					
本科目は、根拠や理論に基づいた関係法規を修得するために、実際の接骨院現場で使う例や国家試験の過去問題関係法規を理解する。(目的・情報・知識・手順から理解して身につける。)					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	9	3	施術所、雑則	実際に施術所の開設届の記入と広告を作成できる。
2	4	16	3	免許	実際に柔道整復師の免許申請と名簿の書換え交付と消除と再交付と国家試験受験願書を作成できる。
3	5	7	3	総則、免許	総則と免許の項目の説明ができ、国家試験問題と関係づける事ができる。
4	5	14	3	柔道整復師国家試験、業務	柔道整復師国家試験と業務の項目の説明ができ、国家試験問題と関係づける事ができる。
5	5	21	3	施術所、雑則	施術所と雑則の項目の説明ができ、国家試験問題と関係づける事ができる。
6	5	28	3	罰則、指定登録機関及び指定試験機関、附則	罰則、指定登録機関及び指定試験機関、附則の説明ができ、国家試験問題と関係づける事ができる。
7	6	4	3	復習	第1回から6回の学習内容を整理し解説できる。
8	6	18	3	中間テストの解説、序論	中間テストの問題解説ができ、序論の項目の説明ができる。国家試験問題と関係づける事ができる。
9	6	25	3	医療従事者の資格法	医療従事者の資格法の説明ができ、国家試験問題と関係づける事ができる。
10	7	2	3	医療法	医療法の説明ができ、国家試験問題と関係づける事ができる。
11	7	9	3	社会福祉関係法規、社会保険関係法規、その他の関係	社会福祉関係法規と社会保険関係法規とその他の関係法規の説明ができ、国家試験問題に関係づける事ができる。
12	7	16	3	柔道整復師法	柔道整復師法の説明ができ、国家試験問題に関係づける事ができる。
13	7	23	3	柔道整復師施行令、柔道整復師施行規則	柔道整復師施行令と柔道整復師施行規則の説明ができ、国家試験問題に関係づける事ができる。
14	7	30	3	その他省令、日本国憲法	その他省令と日本国憲法の説明ができ、国家試験問題に関係づける事ができる。
15	8	6	3	復習	第1回から14回の学習内容を整理し解説できる。
評価基準			教科書		参考書
中間テスト	30%		関係法規 2019年版 (医歯薬出版株式会社)		柔道整復師国家試験問題 (公益財団法人柔道整復研修試験財団ホームページ)
期末テスト	70%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:35~11:20)

3限目(11:25~12:55)

科目名	衛生学・公衆衛生学 2			学年	3 年 9 期生
担当者				期別	後期
単位数	2 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30 時間 × 15 回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯科大学助教授を歴任し、行政と協働して公衆衛生活動を行ってきた。				
一般目標 (GIO)					
衛生学・公衆衛生学では、人の健康を左右する要因を理解し、人々の健康の保持、増進を図るために、これらの要因に対して科学的根拠のある対策を行うことを修得する。また、疾病予防や健康増進に寄与するよう衛生・公衆衛生の基本的な知識を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SB0s)
1	4	12		衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動、他	衛生学・公衆衛生学の歴史・活動を説明できる。
2		19	4	健康の概念、人口統計、他	健康を説明する事ができ、人口の推移を比較し、現状を解説する事ができる。
3		26	3	疾病予防と健康管理-疾病の自然史、予防の段階、生活習慣病、集団検診	疾病予防と健康管理について説明する事ができる。
4	5	10	4	感染症の予防: 感染症の定義、種類、予防、対策、予防接種	感染症成立の要件を分類し、予防法を説明する事ができる。主な感染症の動向が評価できる。
5		17	3	消毒の意義、分類、消毒法等	感染源に対する消毒が説明でき、院内感染への関わり方を述べる事ができる。
6		24	4	環境問題、物理的・化学的・生物的環境要因、空気、公害	環境とヒトの健康の関係を述べ、環境問題対策を説明する事ができる。
7		31	3	食品衛生等	食品衛生が説明でき、栄養と健康を関係づける事ができる。
8	6	14	4	模擬試験 1	7 回目までの講義内容の理解度を整理する。
9		21	3	母子保健: 指標、小児保健、行政、対策 学校保健: 領域と構成、学校保健管理、保健教育	母子保健・学校保健の目的と枠組が説明でき、年齢に応じた保健対策を述べる事ができる。
10	7	5	4	産業保健: 目的、労働災害、作業条件による健康障害	産業保健の目的と枠組が説明でき、柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。
11		12	3	成人・老人保健、生活習慣病 精神保健: 精神の病気、精神保健活動 地域保健と国際保健: 地域保健活動、福祉対策、国際協力、WHO	成人・老人保健の目的と枠組が説明でき、柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。精神保健問題を指摘し、その対策を解説する事ができる。地域保健・国際保健を説明し、進め方を述べる事ができる。
12		19	4	衛生行政と保健医療の制度: 組織、医療施設、医療保険、公費負担医療他	衛生行政と保健医療の制度を説明する事ができる。
13		26	3	医療の倫理と安全確保: 問題と倫理、医療の安全の確保	医療の倫理と安全確保について柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。
14	8	2	4	疫学: 病因論、疫学調査、調査の実施と結果分析、結果の解釈、統計手法	疫学を説明し、疫学の手法を分類し、評価できる。
15		9	3	模擬試験2	9~14 回目までの講義内容について理解度を整理する。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	80%	南江堂 衛生学・公衆衛生学		厚生労働白書等、その他配付資料	
レポート等	10%				
小テスト	5%				
受講態度・出席状況	5%				

科目名	柔道整復実技応用10			学年	3年9期生
担当者				期別	前期
単位数	1単位			講義・実習	実習
時間数・授業回数	30時間 15回			専任・兼任	専任
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員3年				
一般目標(GIO)					
<p>本科目は認定実技審査に向けた、理論と技術の向上を目標とする。</p> <p>下肢の軟部組織損傷とその検査法について理解する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	9	1	基礎知識と構造の理解 (下腿三頭筋損傷について)	解剖学的構造を述べ、運動器の役割を理解できる。
2	4	16	1	問診法	適切な問診法を理解できる。
3	5	7	1	触診・触診法	適切な触診・触診法を理解できる。
4	5	14	1	検査前の確認	適切な検査前の確認を理解できる。
5	5	21	1	検査法	適切な検査法を選択・判断できる。
6	5	28	1	検査法②	適切な検査法を選択・判断できる。
7	6	4	1	検査後の確認	適切な検査後の確認ができる。
8	6	18	1	基礎知識と構造の理解 (足関節外側靭帯損傷について)	解剖学的構造を理解し運動器の役割を理解できる。
9	6	25	1	問診法	適切な問診法を理解できる。
10	7	2	1	触診・触診法	適切な触診・触診法を理解できる。
11	7	9	1	検査前の確認	適切な検査前の確認を理解できる。
12	7	16	1	検査法	適切な検査法を選択・判断できる。
13	7	23	1	検査法②	適切な検査法を選択・判断できる。
14	7	30	1	検査後の確認	適切な検査後の確認をできる。
15	8	6	1	1～14回までの復習	講義内容を再確認できたか確認し自己評価できる。
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	100%		柔道整復学・実技編		
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:35～11:20)

3限目(11:25～12:55)

科目名	柔道整復実技応用14			学年	3 年 9 期生
担当者				期別	後期
単位数	1 単 位			講義・実習	実習
時間数・授業回数	30時間 15回			専任・兼任	専任
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員3年				
一般目標(GIO)					
<p>本科目は認定実技審査に向けた、理論と技術の向上を目標とする。</p> <p>上肢の軟部組織損傷とその整復・検査法について理解する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	1	3	①鎖骨骨折の説明	鎖骨骨折について整復・検査法を説明できる。
2	10	8	3	整復・検査法	適切な整復・検査法ができる。
3	10	15	3	②上腕骨外科頸外転型骨折の説明	上腕骨外科頸外転型骨折について整復・検査法を説明できる。
4	11	5	3	整復・検査法	適切な整復・検査法ができる。
5	11	12	3	③コーレス骨折の説明	コーレス骨折について整復・検査法を説明できる。
6	11	19	3	整復・検査法	適切な整復・検査法ができる。
7	11	26	3	④肩鎖関節上方脱臼の説明	肩鎖関節上方脱臼について整復・検査法を説明できる。
8	12	3	3	整復・検査法	適切な整復・検査法ができる。
9	12	10	3	⑤肩関節前方烏口下脱臼の説明	肩関節前方烏口下脱臼について整復・検査法を説明できる。
10	12	17	3	整復・検査法	適切な整復・検査法ができる。
11	12	24	3	⑥肩関節後方脱臼の説明	肩関節後方脱臼について整復・検査法を説明できる。
12	1	7	3	整復・検査法	適切な整復・検査法ができる。
13	1	14	3	⑦肘内障の説明	肘内障について整復・検査法を説明できる。
14	1	21	3	整復・検査法	適切な整復・検査法ができる。
15	1	28	3	1～14回の実施項目の復習	講義内容を再確認できたか確認し自己評価できる。
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%		柔道整復学・実技		
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:35～11:20)

3限目(11:25～12:55)

科目名	臨床実習 2			学年	3 年 9 期生
担当者				期別	後期
単位数	単 位			講義・実習	実習
時間数・授業回数	45 時間			専任・兼任	専任
実務経験	整形外科勤務 1 年 開業経験 5 年 教員経験 3 年				
一般目標 (GIO)					
実際の現場での学びを通し、養成施設での学習のみでは習得し得ない医療者としての態度を習得し、患者などの利用者を正しく理解して、柔道整復術に対するニーズを把握すると共に、柔道整復術師がどうあるべきかを考察できる能力を習得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	30	2・3	股関節の体表観察について	股関節の主要な骨、筋を触診できる。
2	10	7	2・3	股関節の身体診察法について	股関節の身体計測、ROM を評価できる。
3	10	21	2・3	股関節の検査法について	股関節の徒手検査、反射検査を実施できる。
4	10	28	2・3	股関節の MMT について	股関節周囲の筋の MMT を評価できる。
5	11	11	2・3	膝関節の体表観察について	膝関節の主要な骨、筋を触診できる。
6	11	18	2・3	膝関節の身体診察法について	膝関節の身体計測、ROM を評価できる。
7	11	25	2・3	膝関節の検査法について	膝関節の徒手検査、反射検査を実施できる。
8	12	2	2・3	膝関節の MMT について	膝関節周囲の筋の MMT を評価できる。
9	12	9	2・3	足関節の体表観察について	足関節の主要な骨、筋を触診できる。
10	12	16	2・3	足関節の身体診察法について	足関節の身体計測、ROM を評価できる。
11	12	23	2・3	足関節の検査法について	足関節の徒手検査、反射検査を実施できる。
12	1	6	2・3	足関節の MMT について	足関節周囲の筋の MMT を評価できる。
13	1	20	2・3	物理療法について	物理療法機器の効果と適応と禁忌を説明できる。
14	1	27	2・3	施術録について	施術録の項目の説明と記載方法を説明できる。
15	2	3	2・3	巻軸包帯・テーピング	患部の運動制限、疼痛緩和、血行障害の予防などの技術を習得できる。
評価基準			教科書		参考書
実技試験	100%				標準整形外科学(医学書院)
	%				
	%				
	%				

科目名	臨床実習 1			学年	3 年 9 期生
担当者				期別	前期
単位数	単位			講義・実習	実習
時間数・授業回数	45 時間			専任・兼任	専任
実務経験	整形外科勤務 1 年 開業経験 5 年 教員経験 3 年				
一般目標 (GIO)					
実際の現場での学びを通し、養成施設での学習のみでは習得し得ない医療者としての態度を習得し、患者などの利用者を正しく理解して、柔道整復術に対するニーズを把握すると共に、柔道整復術師がどうあるべきかを考察できる能力を習得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	8	2・3	施術所に関して	柔道整復施術所・医療機関の役割・機能を理解し説明できる。
2	4	15	2・3	医療面接について	主訴・現病歴を把握し説明できる。
3	4	22	2・3	医療面接について	既往歴・家族歴・社会歴を聴取し説明できる。
4	5	13	2・3	肩関節の体表観察について	肩関節の主要な骨、筋を触診できる。
5	5	20	2・3	肩関節の身体診察法について	肩関節の身体計測、ROM を評価できる。
6	5	27	2・3	肩関節の検査法について	肩関節の徒手検査、反射検査を実施できる。
7	6	3	2・3	肩関節の MMT について	肩関節周囲の筋の MMT を評価できる。
8	6	10	2・3	肘関節の体表観察について	肘関節の主要な骨、筋を触診できる。
9	6	17	2・3	肘関節の身体診察法について	肘関節の身体計測、ROM を評価できる。
10	6	24	2・3	肘関節の検査法について	肘関節の徒手検査、反射検査を実施できる。
11	7	1	2・3	肘関節の MMT について	肘関節周囲の筋の MMT を評価できる。
12	7	8	2・3	手関節の体表観察について	手関節の主要な骨、筋を触診できる。
13	7	22	2・3	手関節の身体診察法について	手関節の身体計測、ROM を評価できる。
14	7	29	2・3	手関節の検査法について	手関節の徒手検査、反射検査を実施できる。
15	8	5	2・3	手関節の MMT について	手関節周囲の筋の MMT を評価できる。
評価基準			教科書		参考書
実技試験	100%				標準整形外科学(医学書院)
	%				
	%				
	%				